

	和名(別名)	科名	備考		和名(別名)	科名	備考
19	ツルアジサイ(ゴトウヅル)	ユキノツタ科	つる性木本	22	シウリザクラ	バラ科	広葉樹
	 <p>ツルアジサイはゴトウヅルとも呼ばれ、北海道から本州・四国・九州、南千島・樺太・朝鮮南部に分布する落葉性のツル植物。主にブナ林や暖温帯上部の夏緑広葉樹林に生育する。林縁や樹木の枯損によって形成されたギャップ、岩上などに生育する。莖は気根を出して樹木に附着し、這い登る。葉は対生し、葉の長さは5~12cm、長さ3~9cmの葉柄がある。葉質はやや厚く、縁に規則正しい、両面、脈に沿って短毛があり、脈腋には白色の毛が密生する。6月から7月にかけ、枝先に花序を形成する。</p>				 <p>シウリザクラは山地に生える落葉高木で、高さ20m、太さ50cmに達する。樹皮は灰褐色で縦に裂け、不規則な小片となつてはげる。若葉は紅色、成葉は長楕円形で長さ8~13cm、尾状に鋭くとがり基部は心形、針状にとがった細鋸歯がある。葉柄の上部に腺点がある。花は10~15cmの総状花序で葉よりも遅れて咲く。実は暗紅色から黒色となる。</p>		
20	ナノウツギ(サビタ)	ユキノツタ科	広葉樹	23	アズキナシ(カタスギ)	バラ科	広葉樹
	 <p>ナノウツギは北海道から九州に分布する落葉の低木。千島から樺太、中国にも分布する。生育立地はとにかく多様であり、林縁や草原、岩礫地、湿原にも生育する。桜島の遷移では、初期の低木林期に出現することでわかるように乾燥した痩瘠地にも生育するし、高層湿原の泥炭上にも出現する。これらの生育地に共通する点は、日照が十分に当たる程度しかないように思う。高さは5m程になるが、葉は対生で、葉柄は長さ1~4cm、葉身は長さ5~15cmで大きさの変異は大きい。7月から8月の終わりにかけ、枝先に円錐状の花序を形成する。</p>				 <p>アズキナシは北海道から九州に分布する落葉の高木。中国大陸にも分布する。温度的には、ブナ帯の下部から低山帯まで広く生育する。高木といってもあまり高くはならないので、コナラやアベマキなどの優占群落を形成する樹種とは競合できず、何らかの攪乱があったような場所に生育することが多い。アズキナシの特徴は、葉に規則正しい波状の構造があることである。葉には10~13対の明瞭な側脈があり、側脈が葉の裏側に突出している。春に白い花を咲かせ、秋には赤い小さなアズキほどの果実を付ける。</p>		
21	エゾヤマザクラ(オオヤマザクラ)	バラ科	広葉樹	24	ナナカマド	バラ科	広葉樹
	 <p>エゾヤマザクラは山地に生える落葉高木で、高さ25m、太さ1.3mに達する。樹皮は光沢のある紫褐色。若葉は赤褐色、成葉はほぼ楕円形で先は尾状にとがる。腺で終わる鋭鋸歯がある。花は5月に葉と同時に開く。実は赤から紫黒色に熟す。</p>				 <p>5~6月、枝先に直径6~8ミリの白色の小さな5弁花を密に複数房状につける。両性花である。小さな花が密生して咲くことは、昆虫がとまるための便利な台となる。落葉広葉樹の中高木で、高さ10~15メートル、直径20~30センチになる。樹幹は単幹、双幹、株立ちがある。枝は太いが斜上するので、樹冠は横にあまり広がらない。樹皮は固有の臭気がある。日当たりのよい適潤か湿潤な肥沃地でよく成長するが、やや乾燥した尾根筋などにも生育する。亜高山帯の針葉樹林内の疎開地によく見られる。</p>		